

## 令和元年度 高校生の「税についての作文」

柏税務署長賞

### 「税金の見方」

麗澤高等学校 一年 津田 尚人

僕は今の日本政府や、国民の税金に対する考え方に疑問を感じずには入れられない。僕は高校生だが、「税金」について新しい見方をしていきたいと思う。

まず、税金とは何のためにあるのだろうか。僕は税金を投資だと思っている、そして2つの役割があると考えている。一つ目は社会最低限のインフラを整える役割、二つ目は回りめぐって社会に還元するため、自分のための投資。そして、この社会というのは日本だけでなく世界もふくめる。僕が疑問を感じるのは、「税金が払えば、徴収すればもう終わり」という発想だ。この考えを変えなければ税金を払った分だけの便利さを感じられないと思う。そして、国も社会、後世のための税金施策をしないのだろう。僕はこの考えを「税II投資」に変える必用があると思う。「投資」は金を出した人にも、受け取った人にも責任があるからだ。

では、具体的に実行するには仕組みとしてどんな方法があるのか僕の考えを述べる。僕は以下の分野以外国の税金を投入する必要はないと思う。まず、防衛費、災害対策費、次に子育て対策費その後高齢者対策費最後に基礎科学研究費。極論これ以外国の税金を投入する必要はない。

最初の防衛費と災害対策費だ。この2つは日本国の主権・領土・国民を守るためへのものだ。そしてどちらも対象範囲が全国なので国が行う必要がある。次の2つの対策費だ。僕が子育ての方を優先するには理由がある。今まで日本の少子高齢化対策は後手後手の高齢化対策ばかりだった。未来を考えた時投資すべきなのは若い方なのは当然だ。これが僕が先にする理由だ。最後に基礎科学研究費だ。日々の生活を効率よく快適なものにするためには科学の力が必要だ。その科学の力を高めるためには基礎研究が必要だが企業にはすぐ利益にならない研究を嫌がる所が多い。だからこそ、国が未来の発展のためにやるメリットがある。

これまでのことは現実を知らない若者の戯言かもしれない。でも、その戯言を真面目に聞く姿勢が今国に大人に求められているのではないか。もちろん目上の人を敬うのも大事だ。しかし、若者から言わせれば「上は言う割に何もしてくれないじゃないか」が現実だ。だからこそ、必要最低限に投資をし最大限の利益を得るために頭を全員で考える必用がある。その第一歩こそ税金を「もらう・受け取る↓使う」ではなく「投資」という概念に変えることが必要なのではないか。